「人間の尊厳と自立」(社会福祉基礎) 授業概要 【通学】

授業の回数： 6 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子			
時間数(単位時間数)：5(6)時間		配当学年・時期： 2年 4～5月(養成期間2年)			
必修・選択： 必修					
[授業の目的・ねらい] 人間を多面的に理解し、尊厳の保持、自立と自律した生活を支援する重要性を理解し、介護の場面での倫理的課題に気づくことができる基礎となる力を養う。					
[授業全体の内容の概要]					
1	人間の多面的な理解	生活の営みを理解し、人間の尊厳や人権を考える。			
2	自立・自律の支援	自立について理解し、自立支援を考える。			
3	人権と尊厳	介護における権利擁護、人権侵害について理解し、尊厳のある生活の支援を考える。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○ 尊厳の保持、自立・自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護、介護の基本的な理念を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法	
4 ～ 5	2	【人間の多面的な理解と尊厳】 1 人間を理解すること 2 人間の尊厳の意味	1 ①人間の多面的理解 ②生命への畏敬の念 2 ①「尊厳」という理念 ②「尊厳」を理念価値ととらえること	講義 演習	
		3 人権、そして尊厳をめぐる歴史的経緯 4 人権、そして尊厳に関する諸規定	3 ①人権思想の潮流 ②人権思想の具現化 4 ①日本国憲法における規定 ②社会福祉法における規定 ③介護保険法、障害者総合支援法における規定		
		【自立・自立の支援】 1 介護における自立 2 自立への意欲と動機づけ 3 自立した生活を支えるための支援の視点 4 介護における自立支援の実践	1 ①自立とは何か ②自立支援とは何か 2 ①生活意欲を高めるための支援 3 ①意欲と意思に基づいた生活づくりの支援 ②人との関係性のなかでの自立と自律 4 ①自分のことは自分でやりたい利用者への支援		講義 演習
		【人権と尊重】 1 介護における権利擁護と人権尊重 2 介護における尊厳の保持の実践 3 尊厳を無視した介護の課題	1 ①一人の利用者としての利用者の権利 ②生活者としての利用者の権利 ③日常生活場面における権利侵害 ④社会生活場面における権利侵害 ⑤権利侵害の生じる背景 ⑥権利擁護の視点 2 ①生きる実感と尊厳 3 ①利用者の生活の場と尊厳 ②身体拘束の禁止		
1	1 総括 2 評価	総括 1 人間の多面的な理解 2 自立・自律の支援 3 人権と尊厳 試験及び評価	講義 到達度確認テスト		
[使用テキスト・参考文献] 社会福祉基礎(実教出版)、社会福祉基礎学習ノート(実教出版) 介護福祉士実務者研修テキスト第1巻 人間と社会(中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立/社会の理解I・II(一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立・社会の理解(日本医療企画)			[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。		

「社会の理解 I」（社会福祉基礎）授業概要 【通学】

授業の回数： 6 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：5(6)時間		配当学年・時期： 2年 6月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 介護保険制度について、創設の背景や流れ、介護現場での実践に求められる基礎的知識を修得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	介護保険制度創設の背景と目的	介護保険制度創設をめぐる社会的背景を理解する。		
2	介護保険制度の基礎的理解	介護保険制度の流れ、各種サービスを理解する。		
3	介護保険制度における専門職の役割	介護保険制度における専門職の役割と多職種連携、チームケアについて理解する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○ 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職に役割等を理解し、利用者に助言できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
6	0. 5	【介護保険制度創設の背景と目的】 1 介護保険制度の創設をめぐる社会的背景 2 1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革 3 介護保険制度の基本理念	1 ①人口の少子高齢化 ②家族による高齢者介護の限界 2 ①老人福祉制度と医療保険制度 ②社会福祉基礎構造改革と介護保険 3 ①介護保険制度の基本理念 ②主要な制度改正	講義 演習
	3. 5	【介護保険制度の基礎的理解】 1 介護保険制度の概要	1 ①介護保険制度の概要	講義 演習
		2 保険者・被保険者	2 ①保険者 ②被保険者	
		3 保険給付の対象者	3 ①保険事故 ②要介護状態区分等と特定疾病	講義 演習
		4 保険給付までの流れ	4 ①要介護認定等の流れ ②ケアマネジメントの流れ	
5 保険給付の種類と内容	5 ①介護給付(居宅サービス等) ②介護給付(施設サービス) ③介護給付(地域密着型サービス) ④予防給付 ⑤市町村特別給付	講義 演習		
6 地域支援事業	6 ①地域支援事業とは ②事業内容			
7 国・都道府県・市町村の役割	7 ①国の役割 ②都道府県の役割 ③市町村の役割	講義 演習		
8 その他の組織の役割	8 ①国民健康保険団体連合会 ②医療保険者と社会保険診療報酬支払基金 ③年金保険者			
9 介護保険の財政	9 ①保険給付に必要な費用 ②地域支援事業の財源 ③保険料 ④利用者負担			
1	【介護保険制度における専門職の役割】 1 介護職の役割 2 介護支援専門員の役割	1 ①多職種連携とチームケア ②利用者の代弁者としての役割 2 ①介護職と介護支援専門員 ②介護保険制度と介護支援専門員 ③介護支援専門員の資格	講義 演習	

		3 その他の専門職の役割	④主任介護支援専門員の資格 3①医療関係職種 ②福祉系職種	
1	1 総括 2 評価	総括 1 介護保険制度創設の背景と目的 2 介護保険制度の基礎的理解 3 介護保険制度における専門職の役割 試験及び評価		講義 到達度確認テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>社会福祉基礎（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第1巻 人間と社会（中央法規出版）、 介護福祉士養成実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立／社会の理解Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立・社会の理解（日本医療企画）</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「社会の理解Ⅱ」（社会福祉基礎）授業概要 【通学】

授業の回数： 36 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子			
時間数（単位時間数）：30（36）時間		配当学年・時期： 2年 9～2月（養成期間2年）			
必修・選択： 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の生活と社会の関わり、社会保障の基本的な考え方、歴史や変遷、しくみについて理解する。また、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を修得する。</p>					
[授業全体の内容の概要]					
1	生活と福祉	家庭生活の機能を理解し、関連する福祉について考える。			
2	社会保障制度	社会保障の役割と構造を理解し、社会保険や公的扶助（生活保護制度）を活用するために必要な基礎的知識を理解する。			
3	障害者自立支援制度（障害者総合支援法）	障害者自立支援法が成立した経緯、障害者総合支援法への改正、仕組みと内容、国などの役割関連機関等を理解する。			
4	介護実践にかかわる諸制度	介護を実践するにあたって必要な制度について理解する。			
<p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。 ○ 障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法	
9 ～ 2	4	【生活と福祉】	1 ①家庭・家族・世帯 ②家庭生活の基本機能	講義 演習	
		2 家族	2 ①家族とは ②家族の構造と形態 ③家族の変容と家族間の多様化		
		3 地域	①地域社会とコミュニティ ②都市化と過疎化 ③地域社会の様々な集団		
		4 社会集団と組織	①集団の概念と組織の概念 ②官僚制の機能と逆機能 ③集団・組織における人間観と役割		
		5 ライフスタイルの変化	①ライフサイクルとライフコース ②ジェンダーの視点 ③ワーク・ライフ・バランスの可能性		
	1 3		【社会保障制度】	①社会保障とは ②セーフティネット	講義 演習
			1 社会保障の役割と意義	①社会保障の目的 ②社会保障の機能	
			2 社会保障の目的と機能	①社会保障の目的 ②社会保障の機能	
			3 社会保障の範囲と対象	①社会保障の範囲 ②社会保障の対象 ③ライフサイクルからみた社会保障	
			4 わが国の社会保障制度のしくみ	①社会保障を支えるもの ②社会保障のしくみ ③現在の社会保障制度の体系	
5 年金保険			①年金保険の目的 ②国民年金 ③被用者年金		
6 医療保険	①医療保険の目的				

		②被用者保険 ③国民建國保険	
	7 後期高齢者医療制度	①老人保健制度から後期高齢者医療制度への流れ ②制度の概要	
	8 雇用保険	8 ①雇用保険の目的 ②保険者・被保険者 ③保険の給付と事業	
	9 労働者災害補償保険	9 ①労働者災害補償保険 ②事務の所轄と適用 ③保険の給付と事業	
	10 公的扶助	①日本国憲法 25 条と生活保護 ②生活保護の基本原則と原則 ③保護の種類 ④被保護者数と世帯数の年次推移	
	11 社会手当	①社会手当の概要 ②社会手当の種類	
	12 社会福祉	①社会福祉法制の構造 ②社会福祉法制の種類	
7	【障害者自立支援制度】 1 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ	①障害者総合支援法制定までの流れ	講義 演習
	2 サービスの種類と内容	①自立支援給付と地域生活支援事業 ②自立支援給付 ③地域生活支援事業	
	3 サービス利用の流れ	①介護給付と訓練等給付のサービス ②その他のサービス	
	4 自立支援給付と利用者負担	①介護給付と訓練等給付の利用者負担 ②補装具、自立支援医療、地域生活支援事業の負担 ③実費負担 ④高額障害福祉サービス等給付費 ⑤地方自治体独自の軽減措置	
	5 障害者制度における事業者と施設	①事業者・施設への報酬支払い ②苦情相談窓口	
	6 障害者制度における組織・団体の機能と役割	①国の役割 ②都道府県の役割 ③市町村の役割 ④指定事業者の役割 ⑤その他の機関の役割	
	7 ライフサイクルからみた支援組織	①就学前期の制度の活用と各種機関 ②学齢期の制度の活用と各種機関 ③成人期の制度の活用と各種機関	
1 1	【介護実践にかかわる諸制度】 1 サービスの利用にかかわる諸制度	①日常生活自立支援事業 ②成年後見制度 ③苦情解決の制度 ④第三者評価の制度	講義 演習
	2 虐待防止の諸制度	①高齢者虐待防止法 ②障害者虐待防止法 ③児童虐待防止法	
	3 人々の権利を擁護するその他の諸制度	①個人情報保護に関する制度 ②消費者保護法	
	4 保健医療にかかわる諸制度	①健康日本 21	

			②生活習慣病予防のための施策	
			③感染症・結核対策	
			④難病対策	
			⑤H I V／エイズ予防対策	
	5	医療にかかわる諸制度	①介護職と医療にかかわる諸制度 ②医療関係者に関する法制度 ③保健医療提供の施設に関する法制度 ④医療行為	
	6	生活を支える諸制度	①生活保護法 ②福祉資金制度	
	7	住生活を支援する諸制度	①福祉施設による生活の場の確保 ②住宅の確保の支援 ③高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律	
1	1 2	総括 評価	総括 1 生活と福祉 2 社会保障制度 3 障害者自立支援制度 4 介護実践にかかわる諸制度 試験及び評価	講義 到達度 確認テ スト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>社会福祉基礎（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第1巻 人間と社会（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立／社会の理解Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立・社会の理解（日本医療企画）</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「介護の基本Ⅰ」（介護福祉基礎）授業概要 【通学】

授業の回数： 12 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：10(12)時間		配当学年・時期： 2年 4～5月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の歴史、介護福祉士制度の歴史的背景や社会的役割、安全確保について理解し、自立に向けた介護の考え方や展開についての理解を深め、人間尊重を基盤とした介護観を養う。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p>				
1	介護福祉士の制度	介護福祉士を取り巻く状況や介護福祉士制度について理解し、資格取得方法を確認する。		
2	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方や展開	利用者の尊厳の保持や自立に向けた介護及びその展開についての理解を深め、介護の理念を知る。		
3	介護福祉士の倫理	専門職としての介護福祉士の倫理について理解し、介護観を養う。		
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ○ 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束の禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 5	3	【介護福祉士の制度】	①介護問題の背景と介護福祉士制度	講義
		1 介護福祉士を取り巻く状況	②ケアモデルの転換と「求められる介護福祉士像」	
6	6	2 社会福祉士及び介護福祉士法	①法の制定及び改正の成立 ②法の概要 ③法に関連する諸規定	講義 演習
		【尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方や展開】	①介護職として提供すべき専門的な介護サービス ②生活支援としての介護サービスの目的	
		1 利用者に合わせた生活支援	①ICFの視点を活かした「生活の再構築」の支援 ②業務の有効化にとらわれない専門的な介護サービス	
		2 自立に向けた支援		
		3 介護の専門性		
		2	2	
1 介護福祉士としての倫理の必要性	①倫理綱領作成の経緯 ②倫理綱領の内容			
2		2	2 日本介護福祉士会倫理綱領	
1	1	総括 評価	総括 1 介護福祉士の制度 2 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方や展開 3 介護福祉士の倫理 試験及び評価	講義 到達度確認テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉基礎(実教出版)、介護福祉基礎学習ノート(実教出版) 介護福祉士実務者研修テキスト第2巻 介護Ⅰ(中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅰ・Ⅱ(一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本的理解とリスクマネジメント(日本医療企画)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて総合的に判定する。</p>	

「介護の基本Ⅱ」（介護福祉基礎）授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：2.0(24)時間		配当学年・時期： 2年 6～10月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活を理解し、介護における安全やチームケア等について理解する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	介護を必要とする人の生活の理解と支援	介護を必要とする利用者の生活を理解し、その人らしい生活を実現するための支援を考える。		
2	介護実践における連携	チームアプローチや他職種の職域を理解し、連携に関する知識を修得する。		
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護現場における事故防止・安全対策等リスクマネジメントの重要性を理解し、安全確保のために必要な知識を修得する。		
4	介護福祉士の安全	健康管理、労務管理の重要性を理解し、働きやすい職場環境について考える。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
○ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。				
○ チームアプローチにかかわる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。				
○ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。				
○ 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
6 ～ 10	6	【介護を必要とする人の生活の理解と支援】	①「その人らしさ」の大切さ ②「その人らしさ」を支える介護サービス ③「その人らしさ」の背景 ④変化する生活様式	講義 演習
		1 「その人らしさ」の理解		
		2 高齢者の暮らしと支援の実際		
		3 障害のある人の暮らしと支援の実際		
	4	4 介護を必要とする人の生活環境の理解	①利用者にあった生活の場 ②こころの健康を奪う生活環境 ③人的な生活環境の重要性	
4	4	【介護実践における連携】	①多職種連携とは ②チームを構成するメンバーの理解	講義 演習
		1 多職種連携		
		2 地域連携	①地域連携とは ②地域連携にかかわる機関の理解	
7	7	【介護における安全の確保とリスクマネジメント】	①介護における安全の確保の重要性 ②リスクマネジメントの必要性 ③リスクマネジメントのしくみ ④介護事故発生時の対応 ⑤介護事故の報告 ⑥介護事故の防止、安全対策の実際	講義 演習
		1 事故防止と安全対策		
		2 感染対策		
	6	【介護福祉士の安全】	①介護という仕事の特徴 ②介護職の健康と介護の質	講義 演習
	1 健康管理の意義と目的			

		2 健康管理に必要な知識と技術	①こころの健康管理	
			②からだの健康管理	
		3 安心して働ける環境づくり	①労働環境の改善	
			②労働安全の改善	
1	総括 評価	総括 1 介護を必要とする人の生活の理解と支援 2 介護実践における連携 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント 4 介護福祉士の安全 試験及び評価		講義 到達度確認テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉基礎（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第2巻 介護Ⅰ（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本的理解とリスクマネジメント（日本医療企画）</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「コミュニケーション技術」(コミュニケーション技術) 授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：2.0(24)時間		配当学年・時期：2年 4～10月(養成期間2年)		
必修・選択：必修				
[授業の目的・ねらい] 介護における利用者・家族・チームのコミュニケーションを理解し、利用者、利用者家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。				
[授業全体の内容の概要]				
1	介護におけるコミュニケーション	介護におけるコミュニケーションの重要性と言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解する。		
2	介護におけるコミュニケーション技術	傾聴・共感、パステックの7原則等、介護における具体的なコミュニケーション技術を理解し、修得する。		
3	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	事例を用いて、具体的な介護場面におけるコミュニケーション技法を修得する。		
4	介護におけるチームのコミュニケーション	記録・報告・会議などチームに必要なコミュニケーション技術を修得する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ○ 援助関係を構築し、ニーズの意欲を引き出すことができる。 ○ 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○ 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 10	1	【介護におけるコミュニケーション】 1 コミュニケーションの意義、目的、役割 2 コミュニケーションの技法	1 ①対人援助関係とコミュニケーション ②人間的・効果的なコミュニケーションの基本 2 ①メッセージの送り手と受け手 ②言語チャンネルと非言語チャンネル	講義 演習
	9	【介護におけるコミュニケーション技術】 1 話を聴く技法 2 利用者の感情表現を察する技法 3 利用者の納得と同意を得る技法 4 質問の技法 5 相談・助言・指導の技法 6 利用者の意欲を引き出す技法 7 利用者と家族の意向を調整する技法	①聞くことと聴くこと ②傾聴の3段階 ③よき聴き手とは ①感情表現にかかわる得意・不得意 ②第1次共感と第2次共感 ①明確化の技法 ②焦点化の技法 ③要約の技法 ④直面化の技法 ①質問の具体的な役割と留意点 ②質問の種類 ①身近な相談相手としての介護職の役割 ②介護職に求められる相談の技法 ③相談を受ける際の原則 ④利用者・家族に対する助言・指導 ①利用者の意欲低下 ②利用者の意欲を引き出す留意点 ①利用者と家族の意向 ②利用者と家族の意向の調整	講義 演習
	9	【介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション】 1 コミュニケーション障害の理解 2 高次脳機能障害に応じたコミュ	①コミュニケーション障害とは ②コミュニケーション障害を理解する視点 ①支援の始まり	講義 演習

	ニケーション技術	②支援の経過 ③解説	
	3 失語症に応じたコミュニケーション技術	①支援の始まり ②支援の経過 ③解説	
	4 構音障害に応じたコミュニケーション技術	①支援の始まり ②支援の経過 ③解説	
	5 認知症に応じたコミュニケーション技術	①支援の始まり ②支援の経過 ③解説	
4	【介護におけるチームのコミュニケーション】 1 チームのコミュニケーションとは	①専門職チームのコミュニケーション ②チームのコミュニケーションの方法	講義 演習
	2 記録による情報の共有化	①記録の意義と目的 ②記録の種類 ③記録の書き方と留意点 ④記録の文体 ⑤介護職による記録の実際 ⑥情報の管理	
	3 報告・連絡・相談による情報の共有化	①報告・連絡・相談の意義と目的 ②報告・連絡・相談の具体的な方法と留意点	
	4 会議による情報の共有化	①会議の意義と目的 ②会議の種類と運用	
1	総括 評価	総括 1 介護におけるコミュニケーション 2 介護におけるコミュニケーション技術 3 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 4 介護におけるチームのコミュニケーション 試験及び評価	講義 到達度確認テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>コミュニケーション技術（実教出版）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第2巻 介護Ⅰ（中央法規出版）</p> <p>介護福祉士養成実務者研修テキスト第3巻 コミュニケーション技術（一般財団法人長寿社会開発センター）</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 介護におけるコミュニケーション技術（日本医療企画）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「生活支援技術Ⅰ」(生活支援技術) 授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：2.0(24)時間		配当学年・時期： 2年 9～12月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>ICFの視点に基づいた利用者に必要な支援や、ボディメカニクスを活用した介護技術に関する基本的な知識や技術を修得する。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p>				
1	生活支援とICF	ICFの視点によるアセスメントについて理解する。		
2	居住環境の整備と福祉用具の活用	福祉用具の活用や環境の整備等により、住み慣れた住まいでその人らしく生活できることを理解する。		
3	移動・移乗の介護技術の基本	ボディメカニクスを活用した移動・移乗の支援を理解し、体位変換・車いすの活用・歩行支援等の介護技術の基本を修得する。		
4	食事の介護技術の基本	日常生活における食事の重要性を理解し、食事支援の技術や誤嚥防止等の介護技術の基本を修得する。		
5	入浴・清潔保持の介護技術の基本	清潔保持や安全な入浴の支援を理解し、清拭・部分浴、入浴等の介護技術の基本を修得する。		
6	排泄の介護技術の基本	高齢者における排泄の障がいやコントロールを理解し、尿路感染に留意しながら、介護技術の基本を修得する。		
7	着脱・整容・口腔清潔の基本	残存能力の活用やQOLの向上の重要性を理解し、着脱、整容、口腔清潔等の介護技術の基本を修得する。		
8	家事援助の基本	調理・清掃・買い物など、日常生活に不可欠な家事についてプロセスを確認し、家事援助の基本的な介護技術を修得する。		
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○ 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ○ 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点、留意点を理解している。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
9 ～ 12	3	【生活支援とICF】	1 ①生活支援とは ②生活を把握する方法	講義 演習
		1 生活支援とアセスメント	2 ①ICFの考え方 ②ICFの視点とアセスメント	
			③ICFと生活支援技術のアセスメント	
2	2	【居住環境の整備と福祉用具の活用】	1 ①居住環境と住まい ②住まいの役割	講義 演習
		1 居住環境の意義 2 生活空間と介護	2 ①その人らしさを実現する居住空間 ②居住環境のアセスメント	
		3 福祉用具の活用	①福祉用具とは ②代表的な福祉用具 ③生活で福祉用具を活用する視点	
3	3	【移動・移乗の介護技術の基本】	1 ①なぜ移動をするか ②残存能力の活用と自立支援 ③ボディメカニクスの活用 ④重心と姿勢の安定 ⑤ICFの視点と移動・移乗の介助のアセスメント	講義 実習
		1 移動・移乗の介助を行うにあたって 2 体位変換の介助	2 ①体位変換の介助を行うにあたって ②体位変換の介助におけるアセスメントの視点 ③自立度の高い利用者の体位変換の介助	

	3 車いすの介助	3①車いすの介助 ②車いすの介助におけるアセスメントの視点 ③車いすの基本構造 ④自立度の高い利用者のベッド・車いす間の移乗の介助	
	4 歩行の介助 5 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法	4①一部介助を要する利用者の歩行の介助 5①手すり、歩行器、杖 ②移動用リフト ③簡易スロープと段差解消	
3	【食事の介護技術の基本】 1 食事の介助を行うにあたって	①一部介助を要する利用者への食事介助 ②全介助を要する利用者の食事の介助	講義 実習
	2 食事の介助	①食事の用具を利用する意味 ②食事の用具の種類	
	3 誤嚥・窒息の予防	3①誤嚥と窒息 ②食事の姿勢 ③食べ物の形態の工夫	
	4 脱水の予防	4①脱水が起こる要因 ②脱水の見つけ方	
3	【入浴・清潔保持の介護技術の基本】 1 入浴の介助を行うにあたって 2 入浴の介助	1①なぜ入浴・清拭保持を行うか ②配慮するポイント ③ICFと入浴の介助のアセスメント 2①自立度が高い利用者の入浴の介助	講義 実習
	3 分部浴の介助	①手浴・足浴介助 ②洗髪の介助 ③シャワー浴	
	4 清潔保持の介助	①清拭による清潔保持 ②清拭の介助	
3	【排泄の介護技術の基本】 1 排泄の介助を行うにあたって	1①なぜ排泄をするのか ②配慮すべきポイント ③ICFの視点と排泄の介助のアセスメント	講義 実習
	2 排泄の介助	①自立度が高い利用者の排泄の介助	
3	【着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本】 1 身じたくの介助を行うにあたって	1①なぜ身じたくを整えるのか ②ICFの視点と身じたくの介助のアセスメント	講義 実習
	2 衣服着脱の介助	2①衣服着脱の介助を行うにあたって ②衣服着脱の介助におけるアセスメントの視点 ③自立度が高い利用者への介助の視点	
	3 整容の介助	3①整容の介助を行うにあたって ②整容の介助におけるアセスメントの視点 ③整容の介助	
	4 口腔清潔の介助	4①口腔清潔の介助を行うにあたって ②口腔清潔の介助におけるアセスメントの視点 ③口腔清潔の介助	
3	【家事援助の基本】 1 生活と家事の理解	1①自立生活を支える家事 ②介護職が行う家事援助の専門性	講義 実習
	2 調理	2①調理の援助 ②調理の援助の実際 ③食材と栄養に関する知識	

		<p>3 洗濯</p> <p>4 清掃・ごみ捨て</p>	<p>3①洗濯の援助 ②洗濯の援助の実際 ③衛生と衣服のもつ機能に関する知識</p> <p>4①掃除・ごみ捨ての援助 ②掃除の援助の実際 ③ごみの捨て方</p>	
		<p>5 衣服の補修・裁縫</p> <p>6 衣服・寝具の衛生管理</p> <p>7 買い物</p>	<p>5①衣服の修繕・裁縫の援助 ②衣服の修繕・裁縫の援助の実際</p> <p>6①衣服・寝具の衛生管理 ②衣服の衛生管理 ③寝具の衛生管理 ④シーツのたたみ方</p> <p>7①買い物の援助とは ②買い物の援助の実際 ③ともに行う介護の視点</p>	
	1	総括 評価	<p>総括 1 生活支援と I C F 2 居住環境の整備と福祉用具の活用 3 移動・移乗の介護技術の基本 4 食事の介護技術の基本 5 入浴・清潔保持の介護技術の基本 6 排泄の介護技術の基本 7 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本 8 家事援助の基本</p> <p>試験及び評価</p>	講義 到達度 確認テ スト
<p>[使用テキスト・参考文献] 生活支援技術（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第2巻 介護Ⅰ（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第4巻 生活支援の技術と環境整備（日本医療企画）</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] レポート、実習、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「生活支援技術Ⅱ」（生活支援技術）授業概要 **【通学】**

授業の回数： 36 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数（単位時間数）：30（36）時間		配当学年・時期： 3年 4～10月（養成期間2年）		
必修・選択： 必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>具体的な生活支援技術の根拠や他職種との連携・協働の重要性を理解し、利用者の状況に応じた一部介助や全介助等の介護技術を修得する。また、チームアプローチの役割と連携ができる力を養う。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p>				
1	移乗・移動の介護	体位変換・歩行時の安全安楽を考えた自立支援のための介護技術を修得する。		
2	食事の介護	食事に関する福祉用具の活用と自立支援のための介護技術を修得し、水分補給の必要性を理解する。		
3	入浴・清潔保持の介護	入浴に関する福祉用具の活用と身体状態に応じた自立支援のための介護技術を修得する。		
4	排泄の介護	身体状態に合わせた排泄時の姿勢や用具の選定、自立支援のための介護技術を修得する。		
5	着脱・整容・口腔清潔の介護	衣服・清潔の必要性について理解し、自己選択・自立支援のための介護技術を修得する。		
6	睡眠の介護	睡眠の必要性について理解し、安眠のための介護技術を修得する。		
7	終末期の介護	終末期の本人や家族への支援、チームケアについて理解する。		
<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>○ 以下について、利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p> <p>・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期の介護</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 10	5	【移乗・移動の介護】	①一部介助を要する利用者の体位交換の介助	講義 実習 演習
		1 体位変換の介助	②全介助を要する利用者の体位交換の介助	
		2 車いすの介助	①一部介助を要する利用者のベッド・車いす間の移乗の介助	
		3 安楽な体位の保持と褥瘡	①安楽な体位の保持 ②褥瘡の予防	
		4 歩行の介助	①一部介助を要する利用者の歩行の介助	
	6	【食事の介護】	①一部介助を要する利用者の食事介助	講義 実習 演習
		1 食事介助	②全介助を要する利用者の食事介助	
		2 食事に関する福祉用具と活用方法	①食事の用具を利用する意味 ②食事の用具の種類	
		3 誤嚥・窒息の予防	①誤嚥と窒息 ②食事の姿勢 ③食べ物の形態の工夫	
	3	【入浴・清潔保持の介護】	①一部介助を要する利用者の入浴介助	講義 実習
1 入浴の介助		②全介助を要する利用者の入浴介助		
6	2 入浴に関する福祉用具とその活用方法	入浴に関する福祉用具とその活用方法		
	【排泄の介護】	①一部介助を要する利用者の排泄の介助	講義 実習 演習	
	1 排泄の介助	②全介助を要する利用者の排泄の介助		
2 排泄に関する福祉用具とその活用方法	①ポータブルトイレ ②おむつ、パッド			

			③尿器、差し込み便器	
		3 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応	①頻尿、尿失禁 ②便秘、下痢、便失禁	
		4 その他の排泄に関するさまざまな介助	①自己導尿カテーテルの準備・体位変換の介助 ②浣腸、座薬の挿入の介助 ③ストーマ用装具のパウチにたまった排泄を捨てる介助	
4	【着脱、整容、口腔清潔の介護】			講義 実習 演習
	1 衣服着脱の介助	①一部介助を要する利用者の衣服着脱の介助 ②全介助を要する利用者の衣服着脱の介助		
	2 整容の介助	①一部介助を要する利用者の整容の介助 ②全介助を要する利用者の整容の介助		
	3 口腔清潔の介助	①一部介助を要する利用者の口腔清潔の介助		
5	【睡眠の介護】			講義 実習 演習
	1 睡眠の介助を行うにあたって	①なぜ睡眠が必要なのか ②睡眠を引き起こすしくみ ③睡眠の種類 ④不眠時の介助におけるアセスメントの視点		
	2 睡眠の介助	①睡眠の介助 ②運動機能が低下している利用者への介助 ③認知・知覚機能が低下している利用者への介助		
	3 睡眠に関する用具とその活用方法	①ベッドメイキング ②ベッドメイキングの方法		
	4 睡眠と薬	①睡眠障害と薬 ②服薬の介助		
6	【終末期の介護】			講義 実習 演習
	1 終末期の介護を行うにあたって	①終末期の理解 ②生から死への過程 ③「死」に向き合うころの理解		
	2 終末期の介護	①終末期において何を支えるか ②危篤時の介護の実際		
	3 介護職、家族への支援	①介護職への支援 ②家族への支援		
	1	総括 評価	総括 1 移動・移乗の介護 2 食事の介護 3 入浴・清潔保持の介護 4 排泄の介護 5 着脱、整容、口腔清潔の介護 6 睡眠の介護 7 終末期の介護 試験及び評価	講義 到達度 確認 テスト
[使用テキスト・参考文献] 生活支援技術（実教出版） 介護職員等実務者研修テキスト第2巻 介護Ⅰ（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第4巻 生活支援の技術と環境整備（日本医療企画）			[単位認定の方法及び基準] レポート、実習、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「介護過程Ⅰ」(介護過程) 授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：20(24)時間		配当学年・時期： 3年 4～5月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 介護過程の基礎的な知識を理解し、科学的根拠に基づいた介護過程を展開することができる。また、介護過程とチームアプローチの実践に必要な思考過程を養う。				
[授業全体の内容の概要]				
1	介護過程の意義と目的	介護の概念を認識し、介護過程意義、必要性を理解する。		
2	介護過程の展開	事例を用いて具体的に介護過程の展開を行い、必要性を理解する。		
3	介護過程とチームアプローチ	介護過程とケアマネジメントを結びつけ、チームアプローチを実践するうえでの介護福祉士の役割を理解する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
○ 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。				
○ 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。				
○ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種役割を理解している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 5	3	【介護過程の意義と役割】	①三大介護から、心身の状況に応じた介護へ	講義
		1 介護の概念の見直し	②介護の本質	
		2 根拠に基づいた介護の実践	①意図的な介護を展開するためのプロセス ②介護過程を展開する意味	
1 6	16	【介護過程の展開】	①介護職の仕事と介護過程	講義 演習
		1 介護過程の展開イメージ	②プロセス(手順)の重要性	
		2 アセスメント	①アセスメントとは	
			②情報収集	
			③情報の解釈・関連づけ・統合化	
			④課題の明確化	
		3 計画の立案	①計画の立案のポイント	
			②目標の設定	
			③具体的な援助内容・方法の決定	
			④利用者・家族の参加と多職種連携	
		4 実施	①実施の際の留意点	
			②実施状況の把握	
			③実施の記録	
		5 評価	①評価の意義と目的	
			②評価の視点	
			③介護計画を修正する必要があるかの判断	
4		【介護過程とチームアプローチ】	①ケアマネジメントとは	講義
		1 介護過程とケアマネジメントの関係性	②ケアマネジメントの流れ	
		2 介護過程とチームアプローチ	①チームアプローチにおける介護職の役割	
			②専門職同士の連携	
1		総括 評価	総括 1 介護過程の意義と目的 2 介護過程の展開 3 介護過程とチームアプローチ 試験及び評価	講義 到達度 確認テ スト
[使用テキスト・参考文献] 介護過程(実教出版) 介護福祉士実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ(中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第5巻 介護過程の基礎と応用～事例展開と評価～(日本医療企画)			[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「介護過程Ⅱ」(介護過程) 授業概要 【通学】

授業の回数： 30 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：25(30)時間		配当学年・時期： 3年 6～9月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 利用者の全体像を把握し、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の介護過程の展開を理解し、適切な介護サービスが提供できる能力を養う。				
[授業全体の内容の概要]				
1	介護過程の実践的展開	繰り返して介護過程を展開し、思考過程を練習することの重要性を理解する。		
2	事例による介護過程の展開	高齢者(施設・在宅)、障害者の事例を用いて、実際に介護過程を展開し、思考過程の練習を行う。		
3	演習	これまでの内容を理解した上で、自分自身で事例を展開する技術を取得する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ○ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
6 ～ 9	1	【介護過程の実践的展開】 1 事例で学ぶ介護過程の展開 2 取り上げる事例と構成	1 ①事例を用いて介護過程を学ぶ目的 ②事例を用いた思考過程のトレーニング 2 ①取り上げる事例 ②各事例の構成と掲載するシート類	講義
	8	【事例1】 施設で暮らす高齢者の介護過程	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④施設サービス計画書(1) ⑤施設サービス計画書(2) ⑥フェイスシート ⑦アセスメント表(1) ⑧アセスメント表(1) ⑨アセスメント表(2) ⑩個別援助計画書 ⑪実施評価表 ⑫事例解説	講義 演習
	6	【事例2】 在宅で暮らす高齢者の介護過程	①利用者のプロフィール ②生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(1) ⑦アセスメント表(2) ⑧個別援助計画書 ⑨実施評価表 ⑩事例解説	講義 演習
	6	【事例3】 障害のある人の介護過程	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(1) ⑦アセスメント表(2) ⑧個別援助計画表	講義 演習

			⑨実施評価表 ⑩事例解説	
8	【演習課題事例】 介護老人福祉施設で生活する高齢者の事例		①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(1) ⑦アセスメント表(2) ⑧アセスメント表(2) ⑨個別援助計画表 ⑨個別援助計画表 ⑩事例解説	講義 演習
1	総括 評価		総括 1 介護過程の実践的展開 2 事例1～3及び演習課題事例 試験及び評価	講義 到達度確 認テスト
[使用テキスト・参考文献] 介護過程（実教出版） 介護職員等実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（一般財団 法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第5巻 介護過程の基礎と応用～事例展開と評価～（日本 医療企画）			[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト 等にて、総合的に判定する。	

「介護過程Ⅲ」（介護過程）授業概要 【通学】

授業の回数： 54 回		授業担当： 木村敏子、池内美保 小倉意津子		
時間数（単位時間数）：45（54）時間		配当学年・時期： 3年 9～1月（養成期間2年）		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 利用者との対応や職務について確認しながら、実務者研修で修得した介護過程の展開や生活支援技術等の知識・技術を総合的に活用し、利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開ができる力を養う。				
[授業全体の内容の概要]				
1	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開。グループに分かれて少人数で学習を進める。			
2	事例①片麻痺のある高齢者の支援。演習：自立に向けた介護の実際（移動・移乗の介護）			
3	事例②在宅で終末期を迎える高齢者の支援。演習：自立に向けた介護の実際（食事、身だしなみ、排泄の介護）			
4	事例③一人暮らしの高齢者の支援。演習：自立に向けた介護の実際（移動・移乗・排泄の介護）			
5	事例④施設で生活する利用者への支援。演習：自立に向けた介護の実際（衣服の着脱、入浴の介護）			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 ○ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
9 ～ 1	0.5	【介護過程の実践的展開】 1 利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開 2 事例の特徴	1 ①生活することの意味、人生の尊さ、介護職の仕事の魅力 ②介護技術の実施と評価 2 事例の特徴及び演習の内容	講義
	6.5	【事例1】 片麻痺のある高齢者の支援	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(2) ⑦個別援助計画 ⑧実施評価表 ⑨解説	講義 演習
	4	【自立に向けた介護の実際1】 移動・移乗の介助	①車いすの介助計画立案 ②車いすの介助 ③歩行介助計画立案 ④歩行介助	演習 実習
	8	【事例2】 在宅で終末期を迎える高齢者の支援	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(2) ⑦個別援助計画 ⑧実施評価表 ⑨事例発表 ⑩解説	講義 演習
	6	【自立に向けた介護の実際2】 食事、身だしなみ、排せつの介助	①食事の介助計画立案 ②食事の介助 ③顔の清拭と整髪介助計画立案 ④顔の清拭と整髪介助 ⑤おむつ交換と陰部洗浄・清拭の介助計画	演習 実習

		⑥おむつ交換と陰部洗浄・清拭の介助	
8	【事例3】 一人暮らしの高齢者の生活支援	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(2) ⑦個別援助計画 ⑧実施評価表 ⑨事例発表 ⑩解説	講義 演習
6	【自立に向けた介護の実際3】 移動・移乗、排せつの介助	①腸閉塞の再発予防に向けての具体的な働きかけを計画立案 ②腸閉塞の再発予防に向けての具体的な働きかけ ③トイレまでの移動及び排せつ介助計画立案 ④トイレまでの移動及び排せつ介助 ⑤ベッドからポータブルトイレへの移乗と排せつ介助計画立案 ⑥ベッドからポータブルトイレへの移乗と排せつ介助	演習 実習
8	【事例4】 施設で生活する利用者への支援	①利用者のプロフィール ②家族構成および生活歴 ③現在の状況 ④フェイスシート ⑤アセスメント表(1) ⑤アセスメント表(1) ⑥アセスメント表(2) ⑦個別援助計画 ⑧実施評価表 ⑨事例発表 ⑩解説	講義 演習
6	【自立に向けた介護の実際4】 衣服の着脱、入浴の介護	①自分でできる方法を見つけたい方へ脱衣介助計画立案 ②自分でできる方法を見つけたい方へ脱衣介助 ③脱衣室から浴室へ移動し、浴槽に入って湯につかる介助計画立案 ④脱衣室から浴室へ移動し、浴槽に入って湯につかる介助 ⑤入浴後の着衣介助計画立案 ⑥入浴後の着衣介助	演習 実習
1	総括 評価	総括 1 介護過程の実践的展開 2 事例1～4 3 自立に向けた介護の実際1～4 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
[使用テキスト・参考文献] 介護過程 (実教出版) 介護職員等実務者研修テキスト第3巻 介護Ⅱ (中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第5巻 介護過程の基礎と応用～事例展開と評価～ (日本医療企画)		[単位認定の方法及び基準] 演習成果物、実習、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「発達と老化の理解Ⅰ」（こころとからだの理解）授業概要 【通学】

授業の回数： 12回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数（単位時間数）：10（12）時間		配当学年・時期： 2年 5～10月（養成期間2年）		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 老化に伴う心身の変化を理解し、日常生活への影響を考えるとともに介護における倫理観の理解を促す。				
[授業全体の内容の概要]				
1	こころの変化と日常生活への影響	加齢に伴う心理面の変化を理解し、日常生活における心理的影響、老人期におけるQOL・生きがいや適応課題・パーソナリティについて考える。		
2	身体の変化と日常生活への影響	加齢に伴う身体面の変化を理解し、日常生活における身体的影響を考える。		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ○ 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○ 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
5 ～ 10	3	【こころの変化と日常生活への影響】 1 老化が及ぼす心理的影響	①老化による心理や行動を理解するための視点 ②老化による身体的機能の変化と心理的影響 ③老化による社会的環境の変化と心理的影響	講義 演習
		2 自己概念と生きがい	①自己概念の視点 ②生きがいとQOLの視点	
	8	【からだの変化と日常生活への影響】 1 加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響	①姿勢の変化 ②皮膚の変化 ③毛髪の変化 ④爪の変化	講義 演習
		2 さまざまな機能の変化	①免疫機能の変化	
			②感覚機能の変化	
			③咀嚼機能・消化機能の変化	
			④循環器の機能の変化	
			⑤呼吸器の機能の変化	
			⑥筋肉、骨、関節の機能の変化	
			⑦泌尿器の機能の変化	
⑧生殖機能の変化				
⑨体温維持機能の変化				
1	総括 評価	総括 1 こころの変化と日常生活への影響 2 からだの変化と日常生活への影響 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト	
[使用テキスト・参考文献] こころとからだの理解（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ（中央法規出版）、 介護福祉士養成実務者研修テキスト第6巻 発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ／認知症の理解Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解（日本医療企画）			[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認 テスト等にて、総合的に判定する。	

「発達と老化の理解Ⅱ」（こころからだの理解）授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：20(24)時間		配当学年・時期： 3年 4～6月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 老年期における身体的・精神的変化の特徴を理解し、老年期の介護に必要な知識を修得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	人間の成長・発達	発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。		
2	老年期における発達課題	老年期の発達・パーソナリティを理解し、高齢期に起こりやすい心理的变化(喪失体験等)に留意し、サクセスフルエイジングを意識した支援を考える。		
3	高齢者に多くみられる症状・疾病等	心身的な機能低下に伴う高齢者における症状や疾病を知り、支援するうえでの留意点を理解する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
○ 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。				
○ 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。				
○ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 6	3	【人間の成長・発達】	①発達とは ②生理的発達と心理的発達	講義 演習
		1 発達の定義		
3	3	【老年期の発達・成熟と心理】	①生命や安全がおびやかされることへの不安 ②人間関係、社会的活動の縮小 ③自尊心の低下 ④自己実現の阻害	講義 演習
		1 要介護状態と高齢者の心理		
		2 不適応状態を緩和する心理		
7	3	3 施設への入所・入居による環境の変化と心理	①施設サービスの利用に伴う心理的影響 ②住み慣れた地域と施設の立地 ③集団生活の影響	講義 演習
		【高齢者に多くみられる症状・疾病等】	①痛み(腹痛) ②痛み(筋肉・骨・関節)	
		1 高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点	③めまい ④体重減少・食欲不振 ⑤しびれ ⑥浮腫(むくみ) ⑦咳・痰 ⑧息切れ・息苦しさ ⑨そう羊感(かゆみ)の原因 ⑩不眠(睡眠障害) ⑪便秘 ⑫下痢 ⑬誤嚥 ⑭出血	
		2 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態	①生活習慣病 ②運動系の病気 ③知覚系の病気	
10	3			講義 演習

			④呼吸器の病気	
			⑤腎・泌尿器の病気	
			⑥消化器系の病気	
			⑦循環器系の病気	
			⑧脳・神経系、精神の病気	
			⑨介護保険の特定疾病	
			⑩感染症の病気	
1	総括 評価	総括 1 人間の成長・発達 2 老年期における発達課題 3 高齢者に多くみられる症状・疾病等 試験及び評価		講義 到達度確認 テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版)</p> <p>介護職員等実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ (中央法規出版)</p> <p>介護福祉士養成実務者研修テキスト第6巻 発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ/認知症の理解Ⅰ・Ⅱ (一般財団法人長寿社会開発センター)</p> <p>実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解 (日本医療企画)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「認知症の理解 I」（こころとからだの理解）授業概要 【通学】

授業の回数： 12 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：10(12)時間		配当学年・時期： 2年 10～2月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 脳や記憶のメカニズムを通して、認知症の特徴や認知症が疾患であることを理解し、さらに、認知症の人や家族への支援の基本を理解する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	認知症ケアの理念と概念	認知症ケアの理念、その人を中心としたケアの視点を理解する。		
2	認知症による生活障害、心理・行動の特徴	認知症の中核症状、行動・心理症状、意識障害について理解する。		
3	認知症の人との関わり、支援の方法	支援者の感情のコントロールの重要性を認識したうえで、認知症の方との関わり方の基本を理解する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]				
○ 認知症ケアの取組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。				
○ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。				
○ 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
10 ～ 2	1	【認知症ケアの理念と視点】 1 認知症ケアの理念 2 認知症ケアの視点	1 ①その人を中心としたケア ②その人らしくあり続けるための支援を実現する 2 ①問題視するのではなく、人として接する ②できないことではなく、できることをみて支援する	講義
	6	【認知症による生活障害、心理・行動の特徴】 1 「人」と「生活」の理解 2 認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか 3 認知症の中核症状 4 認知症の行動・心理症状(BPSD) 5 意識障害の理解	①「人」の理解 ②「生活」の理解 ①認知機能の障害が生活に及ぼす影響 ②生活とは、残された能力を活かすこと ①中核症状の理解 ②代表的な中核症状 ①BPSDのなかの心理(精神)症状 ②BPSDのなかの行動症状 ①認知症と意識障害 ②せん妄	講義
4	1	【認知症の人とのかかわり・支援の基本】 1 認知症の人にかかわる際の前提 2 実際のかかわり方の基本	①認知症の人にかかわる前に ②あらかじめ確認しておくこと ①相手の気持ちを読み取る ②本人の行動を妨げる ③上手に質問する ④感謝の気持ちを伝える	講義 演習
		総括 評価	総括 1 認知症ケアの理念と概念 2 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 3 認知症の人との関わり、支援の方法 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
[使用テキスト・参考文献] こころとからだの理解(実教出版) 介護職員等実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ(中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第6巻 発達と老化の理解I・II/認知症の理解I・II(一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解(日本医療企画)			[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「認知症の理解Ⅱ」(こころとからだの理解) 授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：20(24)時間		配当学年・時期：3年 7～10月(養成期間2年)		
必修・選択：必修				
[授業の目的・ねらい] 認知症ケアに必要な医学的知識理解し、認知症の人や家族の状況に合わせた支援ができる力を養う。また、地域におけるサポート体制を知り、それを活用した支援を考えることができる。				
[授業全体の内容の概要]				
1	医学的側面から見た認知症の理解	原因疾患、症状、障害、進行による変化、検査や治療等、認知症の特徴を理解する。		
2	認知症の人や家族への支援の実際	認知症の時期による症状の変化を理解し、認知症の人や家族の支援の方法を習得する。チームアプローチの重要性を理解し、家族に対するレスパイトケアやエンパワメント、地域サポート体制について考える。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
○ 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。				
○ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。				
○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
7 ～ 10	3	【医学的側面からみた認知症の理解】 1 認知症とは	①脳の機能と認知症	講義 演習
			②老化と脳の変化	
			③認知症とは何か	
	2	2 認知症の診断	④認知症ともの忘れの違い	
			⑤認知症に類似した状態	
			①診断の過程	
	5	3 認知症の原因疾患とその病態	②認知症の原因疾患の診断	
			③認知症の重症度の評価	
			①アルツハイマー型認知症	
			②血管性認知症	
③レビー小体型認知症				
④前頭側頭型認知症(ピック病など)				
2	4 認知症の治療と予防	⑤クロイツフェルト・ヤコブ病		
		⑥慢性硬膜下血腫		
6	1 初期の認知症への介護	①認知症の治療	講義 演習	
		②認知症の予防		
		①過ごす場の特徴		
		②初期に起こる変化		
	2 中期への認知症への介護	③変化へのアプローチ		
		④介護職としてのかわり・大切にしたいこと		
		①過ごす場の特徴		
3 後期への認知症への介護	②中期に起こる変化			
	③変化へのアプローチ			
	④介護職としてのかわり・大切にしたいこと			
	①過ごす場の特徴			
5	4 認知症ケアにおけるチームア	②後期に起こる変化	講義	
		③変化へのアプローチ		
		④介護職としてのかわり・大切にしたいこと		
		4 認知症ケアにおけるチームア	①チームアプローチとは	講義

		ローチ	②チームアプローチの実際	演習
		5 家族へのレスパイトケア	①レスパイトケアとは ②レスパイトの方法 ③休まない家族へのかかわり	
		6 家族へのエンパワメント	①家族へのエンパワメントの基本 ②家族の力の活かし方	
	1	総括 評価	総括 1 医学的側面から見た認知症の理解 2 認知症の人や家族への支援の実際 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>こころとからだの理解 (実教出版)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ (中央法規出版)、 介護福祉士養成実務者研修テキスト第6巻 発達と老化の理解 I・II / 認知症の理 解 I・II (一般財団法人長寿社会開発センター)</p> <p>実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解 (日本医療企画)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認 テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「障害の理解 I」(こころとからだの理解) 授業概要 【通学】

授業の回数： 12 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子			
時間数 (単位時間数)：10 (12) 時間		配当学年・時期： 2年 10～2月 (養成期間2年)			
必修・選択： 必修					
[授業の目的・ねらい] 障害者福祉の理念、障害の特徴やそれを踏まえた支援の基本を理解する。					
[授業全体の内容の概要]					
1	障害者福祉の理念	ICFに基づく障害の概念を確認し、障害者福祉の理念を理解する。			
2	障害による生活障害、行動・心理の特徴	身体障害、知的障害、精神障害による生活上の障害や介護の留意点について理解する。			
3	障害児者や家族への関わり・支援の基本	障害のある人や家族に対する支援の視点を知り、支援の基本を理解する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
○ 障害の理念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。					
○ 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。					
○ 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法	
10 ～ 2	3	【障害者福祉の理念】	①「障害」がもつマイナスイメージ ②「障害は個性」という見方	講義 演習	
		1 「障害」をどうみるか			
		2 国際障害分類と国際生活機能分類			①国際障害分類とは ②国際生活機能分類とは ③「国際障害分類」から「国際生活機能分類」への変化 ④医学的モデルから社会モデル
		3 障害者福祉の基本理念	①ノーマライゼーション ②リハビリテーション ③インクルージョン		
	7	【障害による生活障害、心理・行動の特徴】	①視覚障害 ②聴覚・言語障害 ③運動機能障害 ④心臓機能障害 ⑤腎臓機能障害 ⑥呼吸機能障害 ⑦膀胱・直腸機能障害 ⑧ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 ⑨肝臓機能障害	講義 演習	
		1 身体障害による生活上の障害と心理・行動の特徴			
		2 知的障害による生活上の障害の心理・行動の特徴			①知的障害による心理・行動の特徴 ②知的障害のある人の生活の理解と介護上の留意点
		3 精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴			①精神障害による心理・行動の特徴 ②精神障害のある人の生活の理解と介護上の留意点

1	【障害児者や家族へのかかわり・支援の基本】 1 家族の理解と障害の受容支援 2 家族負担の軽減	1 ①家族支援の視点 ②障害の受容と家族 2 ①家族を取り巻く社会環境 ②家族支援となるレスパイトサービス	講義 演習
1	総括 評価	総括 1 障害者福祉の理念 2 障害による生活障害、心理・行動の特徴 3 障害児者や家族へのかかわり・支援の基本 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
[使用テキスト・参考文献] こころとからだの理解（実教出版） 介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ（中央法規出版）、 介護福祉士養成実務者研修テキスト第7巻 障害の理解Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解（日本医療企画）		[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「障害の理解Ⅱ」（こころとからだの理解）授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数（単位時間数）：20（24）時間		配当学年・時期： 3年 10～1月（養成期間2年）		
必修・選択： 必修				
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>様々な障害のある人の支援に必要な医学的知識を理解し、家族を含め地域における障害のある人への支援ができる力を養う。また、地域におけるサポート体制を知り、それを活用した支援を考えることができる。</p>				
〔授業全体の内容の概要〕				
1	医学的な側面から見た障害の理解	障害の種類、原因、特性、障害に伴う機能の変化等、障害の特徴を理解する。		
2	障害児者への支援の実際	障害の状況に合わせた本人や家族への支援の方法を理解し、地域におけるサポート体制を活用した支援について考える。		
<p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <p>○ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</p> <p>○ 障害児・者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
10 ～ 1	15	【医学的側面からみた障害の理解】	①視覚機能	講義 演習
		1 視覚障害	②視覚障害を引き起こす主な眼疾患	
		2 聴覚・言語障害	①聴覚障害 ②言語障害	
		3 運動機能障害	①肢体不自由 ②上肢、下肢の機能障害 ③脳性麻痺による麻痺 ④体幹機能の障害	
		4 心臓機能障害	①心臓機能障害を引き起こす主な疾患	
		5 腎臓機能障害	①腎臓機能障害の医学的理解 ②腎臓機能障害の治療	
		6 呼吸機能障害	①呼吸器機能障害の医学的理解 ②在宅における呼吸機能障害の治療	
		7 膀胱・直腸機能障害	①膀胱・直腸機能障害の医学的理解	
		8 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	①ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の医学的理解	
		9 肝臓機能障害	①肝臓機能障害の医学的理解	
		10 知的障害	①知的障害の心理学的概念 ②知的障害の原因	
		11 精神障害	①精神障害者の法的定義 ②精神障害（疾患）の理解	
		12 発達障害	①発達障害・発達障害者の法的定義 ②発達障害の理解	
		13 難病	①難病の定義 ②疾患の特徴	
8	8	【障害児者への支援の実際】	①生活ニーズの把握	講義 演習
		1 基本的視点に基づいた個別支援	②医学モデルと社会モデル（生活モデル）	
		2 家族の状態の把握と介護負担の軽減	①本人・家族への生涯にわたる支援 ②家族支援の視点 ③年齢・発達段階に応じた家族支援	
		3 地域におけるサポート体制	①行政、関係機関との連携 ②地域における「協議会」との連携 ③インフォーマル支援ネットワーク	

1	総括 評価	総括 1 医学的側面からみた障害の理解 2 障害児者への支援の実際 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
<p>こころとからだの理解（実教出版）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 こころとからだのしくみ（中央法規出版）、 介護福祉士養成実務者研修テキスト第7巻 障害の理解Ⅰ・Ⅱ（一般財団法人長寿社会開発センター）</p> <p>実務者研修テキスト第6巻 老年期の疾病と認知症・障害の理解（日本医療企画）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。</p>	

「こころとからだのしくみⅠ」（こころとからだの理解）授業概要 【通学】

授業の回数： 24 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：2.0(24)時間		配当学年・時期： 2年 4～10月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術で学習する技術の根拠となる人体の構造や機能について理解し、生活支援技術の同じ項目の内容に結びつけられる。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p>				
1	移動・移乗に関連するからだのしくみ	様々な日常生活行為の基本となる移動・移乗について理解し、その行為におけるからだのしくみの基礎的な知識を修得する。		
2	食事に関連するからだのしくみ	日常生活における食事摂取の重要性、食事、摂食、嚥下等、基本的なからだのしくみの基礎的な知識を修得する。また、代表的な栄養摂取法を理解する。		
3	入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	日常生活における清潔保持の意義を理解し、清潔や入浴に関連するからだのしくみ、褥瘡の予防等の基礎的な知識を修得する。		
4	排泄に関連するからだのしくみ	排尿、排便についての基本的なからだのしくみやストーマ等の基礎的な知識を修得する。		
5	着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	衣服の着脱、整容(身だしなみ)、口腔ケア等についての基本的なからだのしくみの基礎的な知識を修得する。		
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>○ 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 10	5	【移動・移乗に関するからだのしくみ】 1 基本的な姿勢	①姿勢の種類	講義 実習
			②良肢位	
			③車いすを動かすためのしくみ	
	4	【食事に関するからだのしくみ】 1 基本的なからだのしくみ	①口腔内のしくみ	講義 演習
			②摂食と嚥下運動	
			③消化器のしくみ	
	2	代償的な栄養摂取法	①経管栄養法とは	講義
			②具体的な経管栄養法	
			③その他の栄養法	
	④栄養補助食品			
⑤経管栄養の実施に関する法律改正				
4	【入浴・清潔保持に関するからだのしくみ】 1 基本的なからだのしくみ	①皮膚のしくみ	講義	
		②発汗のしくみ		
		③皮膚のよごれのしくみ		
		④皮膚のよごれのしくみ		
6	【排泄に関連するからだのしくみ】 1 基本的なからだのしくみ	①尿排出のしくみ	講義 演習	
		①尿排出のしくみ		
		②便排出のしくみ		
		②便排出のしくみ		
		③人工膀胱のしくみ		
4	【着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ】 1 基本的なからだのしくみ	①毛髪のしくみ	講義 演習	
		②爪のしくみ		
		③口腔内のしくみ		
		③口腔内のしくみ		

1	総括 評価	総括 1 移動・移乗に関するからだのしくみ 2 食事に関するからだのしくみ 3 入浴・清潔保持に関するからだのしくみ 4 排泄に関連するからだのしくみ 5 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ 試験及び評価	講義 到達度確認テスト
[使用テキスト・参考文献] ころとからだの理解 (実教出版) 介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 ころとからだのしくみ (中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第8巻 ころとからだのしくみ I・II (一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第7巻 介護に関わるころとからだ (日本医療企画)		[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「こころとからだのしくみⅡ」(こころとからだの理解) 授業概要 【通学】

授業の回数： 72 回		授業担当：木村敏子 池内美保 篠原昌晃 小倉意津子		
時間数(単位時間数)：60(72)時間		配当学年・時期： 3年 4～1月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の構造・機能、身体のしくみ、心理・認知機能等を理解し、介護におけるアセスメントや観察のポイントを修得する。また、それぞれの場面における介護の留意点が変わる。</p>				
<p>[授業全体の内容の概要]</p>				
1	人間の心理	基本的欲求、自己概念、こころの機能等についての基礎的知識を修得する。		
2	人体の構造と機能	生命の維持・恒常のしくみ、骨格や筋肉、神経組織などの構造と機能についての基礎的な知識を修得する。また、ボディメカニクスを活用したからだの動きについての基礎的な知識を修得する。		
3	移動・移乗における観察のポイント	移動・移乗の介護技術を理解し、移動・移乗における観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
4	食事における観察のポイント	食事の介助について理解し、食事における観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
5	入浴・清潔保持における観察のポイント	入浴・清潔保持の介助について理解し、入浴・清拭等における観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
6	排泄における観察のポイント	排泄の介護技術を理解し、排泄における観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
7	着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント	衣服着脱、起床後の整容の流れ、口腔ケアの介助を理解し、身じたくにおける観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
8	睡眠における観察のポイント	睡眠のしくみや睡眠障害の背景を理解し、観察のポイント、医療職との連携のポイントを確認する。		
9	終末期における観察のポイント	終末期の身体機能の特徴やケアの考え方や留意点を理解し、医療職との連携のポイントを確認する。また、介護職の役割について考える。		
<p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 ○ 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的知識を修得している。 ○ 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p>				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 1	8	【人間の心理】 1 人間の欲求の基本的理解	①基本的欲求	講義 演習
			②社会的欲求	
			③マズローの欲求階層説	
		2 こころのしくみの基礎	①思考のしくみ	
			②学習のしくみ	
			③記憶のしくみ	
	24	【人体の構造と機能】 1 生命の維持・恒常のしくみ	④感情のしくみ	講義 演習
			⑤意欲・動機づけのしくみ	
			⑥適応のしくみ	
			①体温	
		2 人間のからだのしくみ	②呼吸	
③脈拍				
④血圧				
①人体の各部の名称				
	①人体の各部の名称			
	②骨の構造とはたらき			
	②骨の構造とはたらき			

		③関節のはたらき	
		③関節のはたらき	
		④筋肉のはたらき	
		④筋肉のはたらき	
		⑤神経のはたらき	
		⑤神経のはたらき	
		⑥感覚器のはたらき	
		⑥感覚器のはたらき	
		⑥感覚器のはたらき	
		⑦呼吸器のはたらき	
		⑧消化器のはたらき	
		⑨泌尿器のはたらき	
		⑩内分泌のはたらき	
		⑪生殖器のはたらき	
		⑫循環器のはたらき	
		⑬血管のはたらき	
4	【移動・移乗における観察のポイント】 1 移動・移乗を阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント 3 医療職との連携のポイント	①精神機能の低下が移動に及ぼす影響 ②身体機能の低下が移動に及ぼす影響 ①エピソードの把握 ②動作の変化、からだの異常の把握 ①身体能力の判断 ②障害の予後の判断 ③装具・義足やすくし用具の適合判断	講義 演習
7	【食事における観察のポイント】 1 食事を阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント 3 医療職との連携のポイント	①精神機能の低下が食事に及ぼす影響 ②身体機能の低下が食事に及ぼす影響 ①主な身体機能 ②緊急性を伴う異常 ②緊急性を伴う異常 ③主な症状 ①治療食の提供、薬剤の投与 ②合併症発生のリスクへの対応 ③義歯の調整	講義 演習
6	【入浴・清潔保持における観察のポイント】 1 入浴を阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント 3 医療職との連携ポイント	①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①主な身体機能 ②主な生活活動 ①食事 ②排泄 ③循環 ④感染 ⑤その他	講義 演習
6	【排泄における観察のポイント】 1 排泄を阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント	①精神機能、判断能力の低下が排泄に及ぼす影響 ②身体機能の低下が排泄に及ぼす影響 ②身体機能の低下が排泄に及ぼす影響 ①排泄状態の観察 ②主な心身機能 ③その他	講義 演習

	3 医療職との連携のポイント	医療職との連携のポイント	
7	【着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント】 1 身じたくを阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント 3 医療職との連携のポイント	①精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①衣服の着脱における観察のポイント ②整容における観察のポイント ③口腔清潔における観察のポイント ①皮膚にかゆみのある場合 ②発疹や水泡がある場合 ③爪の色が紫色になっている ④口腔内の出血や口臭がある場合	講義 演習
4	【睡眠における観察のポイント】 1 睡眠を阻害する要因の理解 2 変化に気づくための観察ポイント	①心身の変化が睡眠に及ぼす影響 ②病気や障害が睡眠に及ぼす影響 ③睡眠不足を及ぼす影響 ①睡眠における観察のポイント ②変化に伴って必要とされる対応	講義 演習
5	【終末期における観察のポイント】 1 終末期の変化の特徴 2 死後の対応 3 医療職との連携のポイント	①終末期における家族の変化 ②終末期の変化の特徴 ③終末期における身体状況の観察 ①死後のからだの変化 ②死亡の確認 ①呼吸困難時の医療と介護の連携 ②疼痛緩和時の医療と介護の連携 ③その人らしい最後を迎えるために	講義 演習
1	総括 評価	総括 1 人間の心理 2 人体の構造と機能 3 移動・移乗における観察のポイント 4 食事における観察のポイント 5 入浴・清潔保持における観察のポイント 6 排泄における観察のポイント 7 着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント 8 睡眠における観察のポイント 9 終末期における観察のポイント 試験及び評価	講義 到達度確認 テスト
[使用テキスト・参考文献] ころとからだの理解 (実教出版) 介護福祉士実務者研修テキスト第4巻 ころとからだのしくみ (中央法規出版) 介護福祉士養成実務者研修テキスト第8巻 ころとからだのしくみ I・II (一般財団法人長寿社会開発センター) 実務者研修テキスト第7巻 介護に関わるころとからだ (日本医療企画)		[単位認定の方法及び基準] レポート、演習成果物、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「医療的ケア」(生活支援技術) 授業概要 【通学】

授業の回数： 62 回		授業担当：豊嶋初美 稲毛益美 真部由美		
時間数(単位時間数)：50(62)時間		配当学年・時期： 3年 4～1月(養成期間2年)		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全に行うための基礎知識を理解し、喀痰吸引及び経管栄養の行為が手順どおりに安全に実施できる知識と技術を修得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	医療的ケア実施の基礎	喀痰吸引等制度、医行為、リスクマネジメント、救急蘇生法、清潔保持、感染予防、バイタルサイン等の基礎的知識を理解する。救急蘇生法の手順に沿って、迅速かつ丁寧に救急蘇生を実施できる知識と技術を修得する。		
2	経管栄養(基礎的知識・実施手順)	経管栄養に関する基礎的知識を理解し、実施手順に沿って説明しながら安全に実施でき知識と技術修得する。		
3	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)	喀痰吸引に関する基礎的知識を理解し、実施手順に沿って説明しながら安全に実施でき知識と技術修得する。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○ 医療的ケアを安全に実施するために必要な知識・技術を修得する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 1	4	【医療的ケア実施の基礎】 医療的ケア	1 ①医療制度とその変遷 ②社会福祉士及び介護福祉士法の改正 ③改正による喀痰吸引等制度の概要	講義 実習
		1 喀痰吸引等制度(社会福祉士及び介護福祉士法の改正)	③改正による喀痰吸引等制度の概要	
		2 医療的ケアと喀痰吸引等の背景	2 ①喀痰吸引等研修 ②実務者研修における医療的ケアの学習	
		3 医行為について	3 ①医行為とは(法的な理解) ②チーム医療 ③医療の倫理について	
		4 その他の制度	4 ①社会福祉士及び介護福祉士以外の法制度	
5	5	安全な療養生活	①安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性	講義 演習 実習
		1 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	②リスクマネジメントの考え方と枠組み ③ヒヤリハット・アクシデント報告 ④ヒヤリハット・アクシデント報告書の書き方	
		2 救急蘇生法	①救急蘇生法がなぜ必要か ②主に市民が行うための一次救命処置(心肺蘇生法など) ③救急蘇生 ④救急蘇生法の実際 ⑤AED	
3	3	清潔保持と感染予防	1 ①感染とは ②地域集団、施設・組織としての予防策 ③手洗い、うがいが感染予防の基本 ④流水に勝る消毒剤はない ⑤消毒剤を用いて手指消毒を行う方法 ⑥うがい	講義 実習
		1 感染予防	2 ①介護職の健康管理 ②ワクチン接種 ③使い捨て手袋やガウン等の使用	
		2 介護職の感染予防		

		⑤子どもの吸引について ⑥吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 ⑦呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して） ⑧喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 ⑨急変、事故発生時の対応と事前対策	
10	2 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順	①喀痰吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持 ①喀痰吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ②吸引の技術と留意点 ③喀痰吸引に伴うケア	講義 実習
1	総括 評価	総括 1 医療的ケア実施の基礎 2 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 3 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 試験及び評価	講義 到達度確認テスト
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト第5巻 医療的ケア（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第8巻 医療的ケアの理論と実践（日本医療企画）		[単位認定の方法及び基準] レポート、実習、到達度確認テスト等にて、総合的に判定する。	

「医療的ケア（演習）」（生活支援技術）授業概要 【通学】

授業の回数： 15 回		授業担当：豊嶋初美 稲毛益美 真部由美		
時間数（単位時間数）：12（15）時間		配当学年・時期： 3年 4～1月（養成期間2年）		
必修・選択： 必修				
[授業の目的・ねらい] 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1	経管栄養のケアを実施	胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養		
2	救急蘇生法演習を実施	救急蘇生法、AEDの使用		
3	喀痰吸引のケアを実施	口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引		
[授業終了時の達成課題（到達目標）] ○ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
月	単位時間数	テーマ	各回内容	授業方法
4 ～ 1	7	1 経管栄養	胃ろう又は腸ろう 5回以上	実習
			経鼻経管栄養 5回以上	
	1	2 心肺蘇生法	心肺蘇生法演習 1回以上	
7		3 喀痰吸引	口腔 5回以上	
			鼻腔 5回以上	
			気管カニューレ内部 5回以上	
[使用テキスト・参考文献] 介護職員等実務者研修テキスト第5巻 医療的ケア（中央法規出版） 介護福祉士養成実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養（一般財団法人長寿社会開発センター） 実務者研修テキスト第8巻 医療的ケアの理論と実践（日本医療企画）			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、技術の修得状況にて判定する。	